

## 2-4. 犯罪被害類型別の特徴

犯罪被害類型別の特徴として、被害による生活上の変化、身体・精神・経済的状況、被害からの回復状況等について分析する。

### (1) 生活上の変化

事件後から現在までに起こった、事件と関連がある生活上の変化について、犯罪被害類型別にみると、回答比率が最も高いのは、配偶者暴力では「別居・離婚をした」(36.0%)、ストーカーでは「学校または仕事を辞めた、変えた」(23.2%)、児童虐待では「家族間で不和が起こった」(31.2%)、交通事故、暴力被害では「学校または仕事をしばらく休んだ(休学、休職)」(それぞれ25.0%、22.9%)となっている(図表4-1)。

図表 4-1 犯罪被害類型別、事件と関連がある生活上の変化(複数回答)【SC1/SC3、Q50】

	全体	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ(休学、休職)	長期に入院したり入院し続けるようなけがや病気をした	自分が転居(引越し)をした	結婚した	別居・離婚をした	望まない妊娠をした	子どもが生まれた	同居している家族が結婚した
犯罪被害者等	819	106 (12.9%)	107 (13.1%)	70 (8.5%)	85 (10.4%)	11 (1.3%)	54 (6.6%)	9 (1.1%)	7 (0.9%)	6 (0.7%)
財産被害	139	6 (4.3%)	8 (5.8%)	5 (3.6%)	4 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)
配偶者暴力	114	19 (16.7%)	8 (7.0%)	3 (2.6%)	18 (15.8%)	0 (0.0%)	41 (36.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
ストーカー行為等	125	29 (23.2%)	12 (9.6%)	3 (2.4%)	20 (16.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
児童虐待	109	22 (20.2%)	20 (18.3%)	11 (10.1%)	21 (19.3%)	7 (6.4%)	3 (2.8%)	3 (2.8%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)
性的な被害	119	5 (4.2%)	8 (6.7%)	5 (4.2%)	5 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
交通事故	104	4 (3.8%)	26 (25.0%)	25 (24.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	109	21 (19.3%)	25 (22.9%)	18 (16.5%)	15 (13.8%)	4 (3.7%)	8 (7.3%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)

	同居している家族に子どもが生まれた	同居している家族の看護・介護が必要になった	家族が亡くなった	家族間の信頼が深まった	家族間で不和が起こった	学校や職場、地域の人々との関係が親密になった	学校や職場、地域の人々との関係が悪化した	その他	事件と関連があると思わない
犯罪被害者等	4 (0.5%)	5 (0.6%)	11 (1.3%)	20 (2.4%)	83 (10.1%)	5 (0.6%)	42 (5.1%)	14 (1.7%)	474 (57.9%)
財産被害	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	4 (2.9%)	114 (82.0%)
配偶者暴力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	5 (4.4%)	19 (16.7%)	1 (0.9%)	3 (2.6%)	1 (0.9%)	47 (41.2%)
ストーカー行為等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	5 (4.0%)	6 (4.8%)	2 (1.6%)	6 (4.8%)	0 (0.0%)	68 (54.4%)
児童虐待	0 (0.0%)	3 (2.8%)	4 (3.7%)	2 (1.8%)	34 (31.2%)	0 (0.0%)	16 (14.7%)	2 (1.8%)	44 (40.4%)
性的な被害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	3 (2.5%)	91 (76.5%)
交通事故	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)	64 (61.5%)
暴力被害	3 (2.8%)	2 (1.8%)	4 (3.7%)	4 (3.7%)	17 (15.6%)	2 (1.8%)	10 (9.2%)	2 (1.8%)	46 (42.2%)

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	学校または仕事を辞めた、変えた	学校または仕事をしばらく休んだ(休学、休職)	長期に通院したり入院したりするようけがや病気をした	自分が転居(引越し)をした	結婚した	別居・離婚をした	望まない妊娠をした	子どもが生まれた	同居している家族が結婚した
性的な被害	痴漢等	90 (2.2%)	2 (2.2%)	3 (3.3%)	1 (1.1%)	2 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無理矢理性交	29 (10.3%)	3 (10.3%)	5 (17.2%)	4 (13.8%)	3 (10.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
交通事故	けが	96 (4.2%)	4 (4.2%)	26 (27.1%)	25 (26.0%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	死亡	8 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	けが	96 (19.8%)	19 (19.8%)	21 (21.9%)	17 (17.7%)	12 (12.5%)	2 (2.1%)	6 (6.3%)	3 (3.1%)	1 (1.0%)	1 (1.0%)
	死亡	13 (15.4%)	2 (15.4%)	4 (30.8%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)

		同居している家族に子どもが生まれた	同居している家族の看護・介護が必要になった	家族が亡くなった	家族間の信頼が深まった	家族間で不和が起こった	学校や職場、地域の人々との関係が親密になった	学校や職場、地域の人々との関係が悪化した	その他	事件と関連があると思うものはない
性的な被害	痴漢等	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	2 (2.2%)	79 (87.8%)
	無理矢理性交	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	1 (3.4%)	12 (41.4%)
交通事故	けが	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (2.1%)	58 (60.4%)
	死亡	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (75.0%)
暴力被害	けが	2 (2.1%)	1 (1.0%)	2 (2.1%)	2 (2.1%)	13 (13.5%)	1 (1.0%)	7 (7.3%)	2 (2.1%)	40 (41.7%)
	死亡	1 (7.7%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	4 (30.8%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	6 (46.2%)

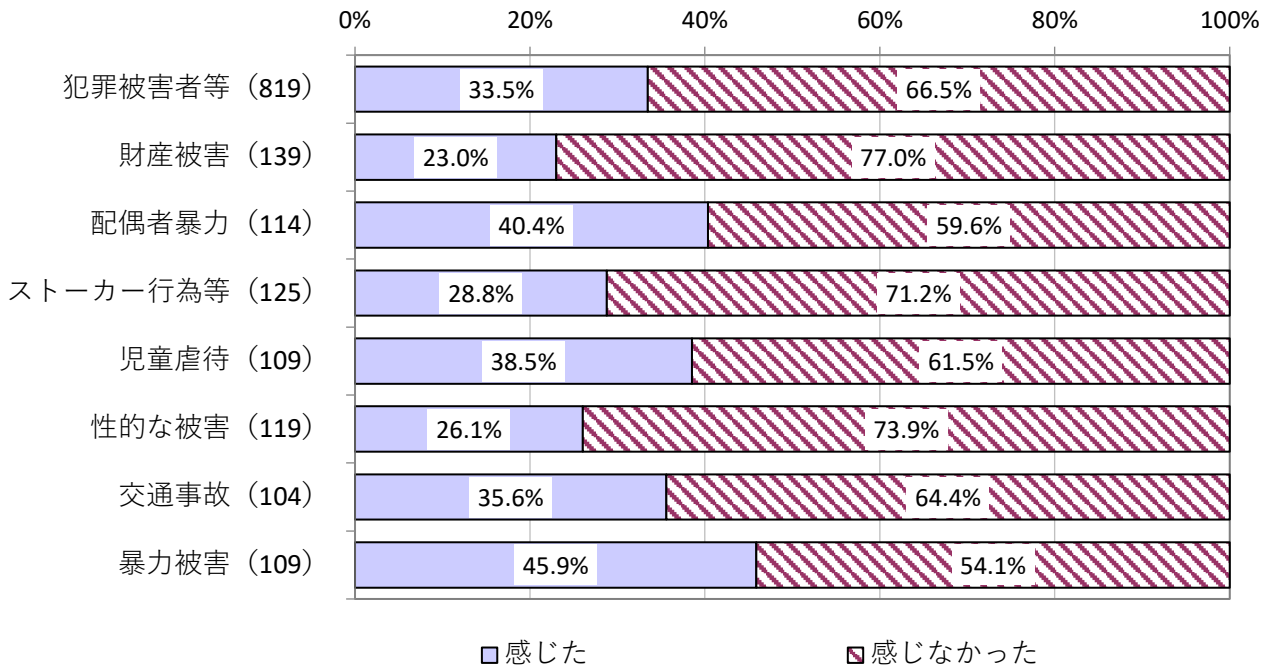
(2)身体的状況

過去30日間における身体上の問題について、犯罪被害類型別にみると、「感じた」との回答比率は、暴力被害(45.9%)で最も高く、次いで配偶者暴力(40.4%)、児童虐待(38.5%)となっている(図表4-2)。

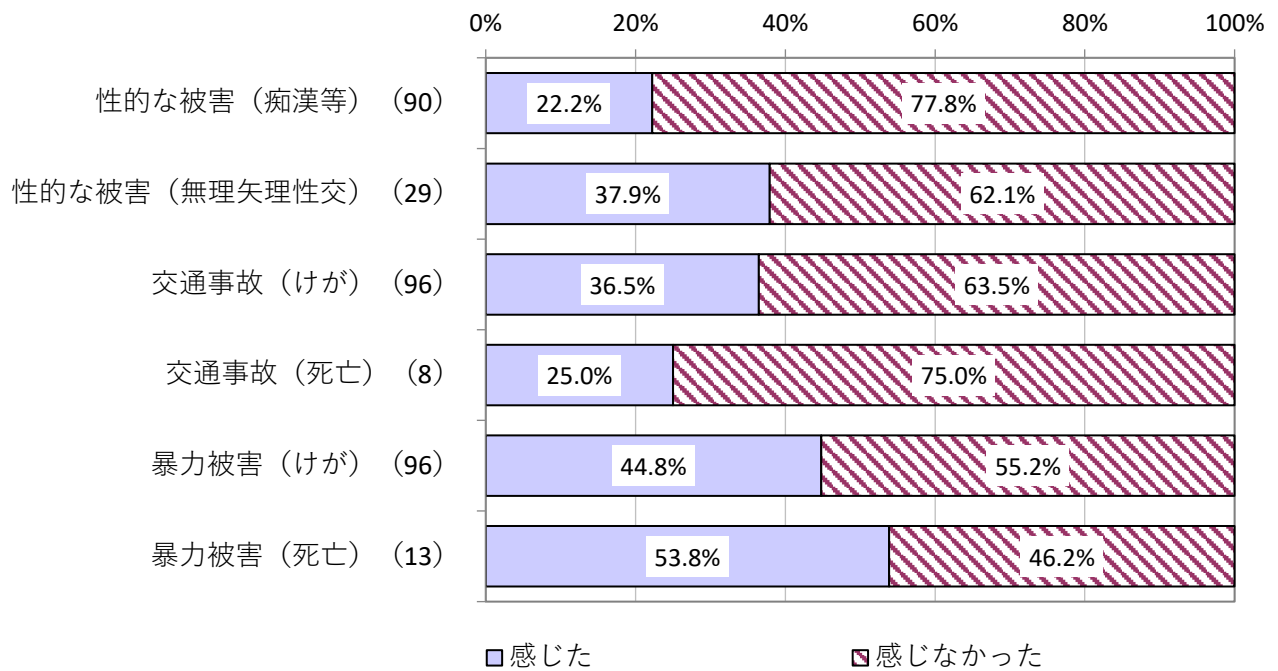
身体上の問題と事件との関係については、事件と関係している(「事件が大いに関係している」と「事件がある程度関係している」の和)との回答比率は、ストーカー(55.5%)が最も高く、次いで性的な被害(38.7%)、暴力被害(36.0%)、交通事故(35.1%)、配偶者暴力(34.8%)となっている(図表4-3)。

身体上の問題への対処方法としては、「医療機関に通った(訪問診療を含む)」との回答比率は交通事故(56.8%)、財産被害(50.0%)で高く、「特に何もしていない」との回答比率は性的な被害(61.3%)、児童虐待(59.5%)、配偶者暴力(54.3%)で高くなっている(図表4-4)。

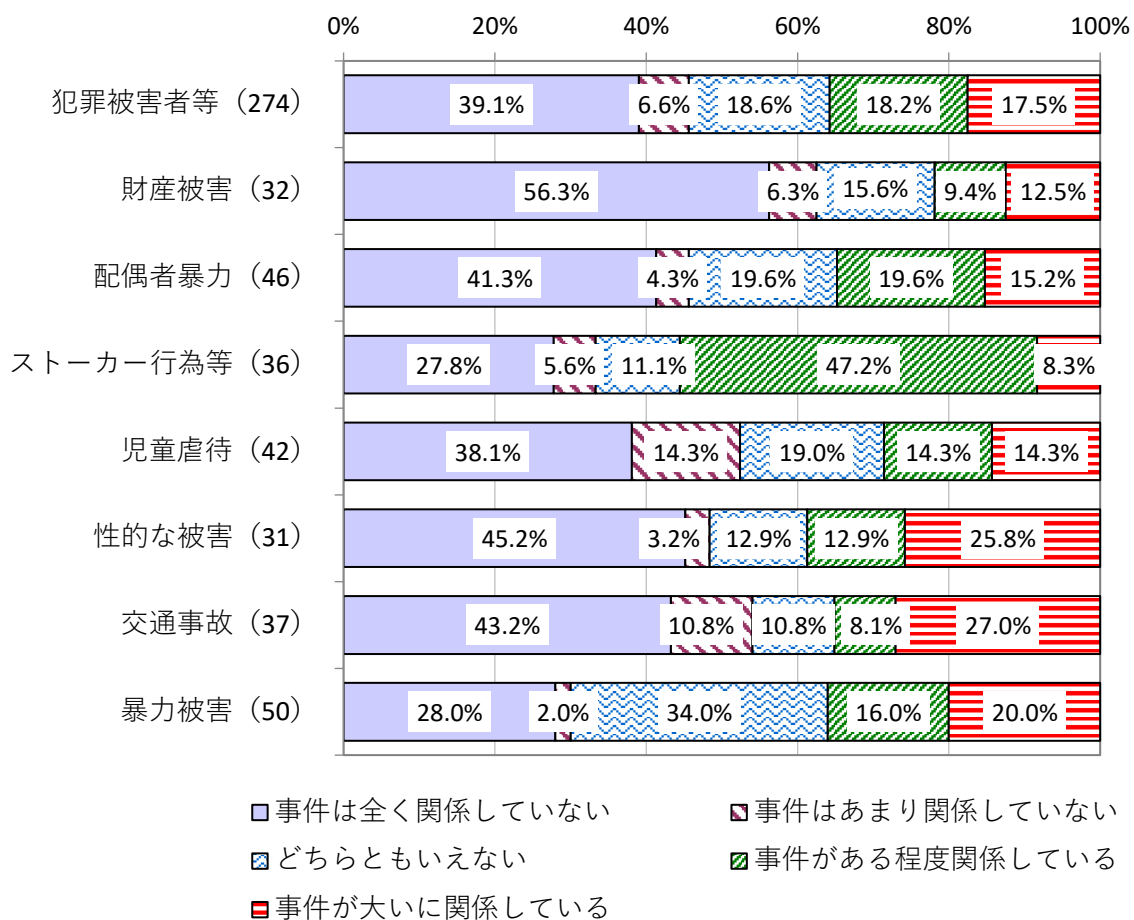
図表 4-2 犯罪被害類型別、身体上の問題の有無【SC1/SC3、Q28】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

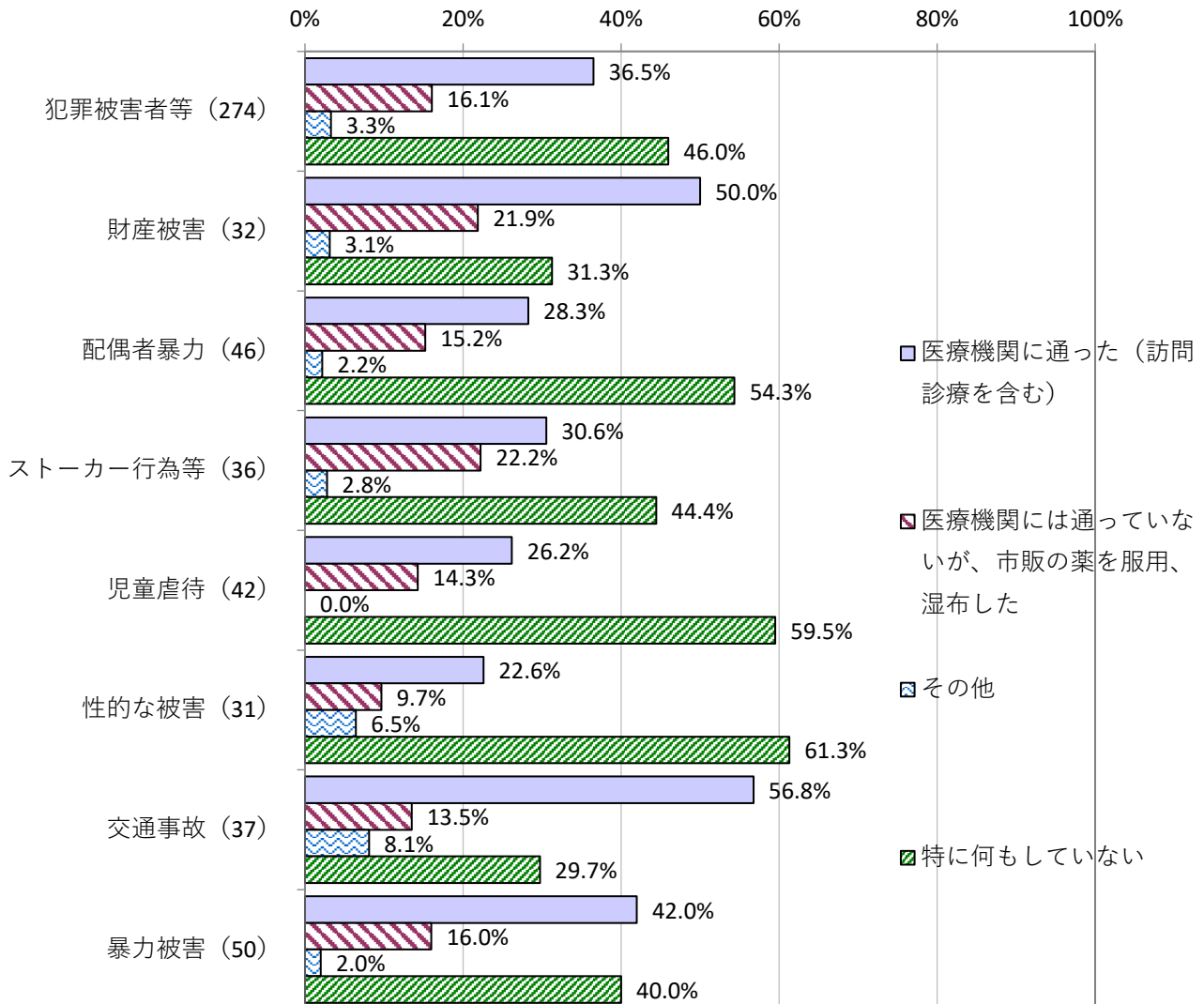


図表 4-3 犯罪被害類型別、身体上の問題と事件との関連【SC1/SC3、Q29】



※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 4-4 犯罪被害類型別、身体上の問題への対処方法（複数回答）【SC1/SC3、Q30】



※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

### （3）精神的状況

#### ア. 精神的な問題

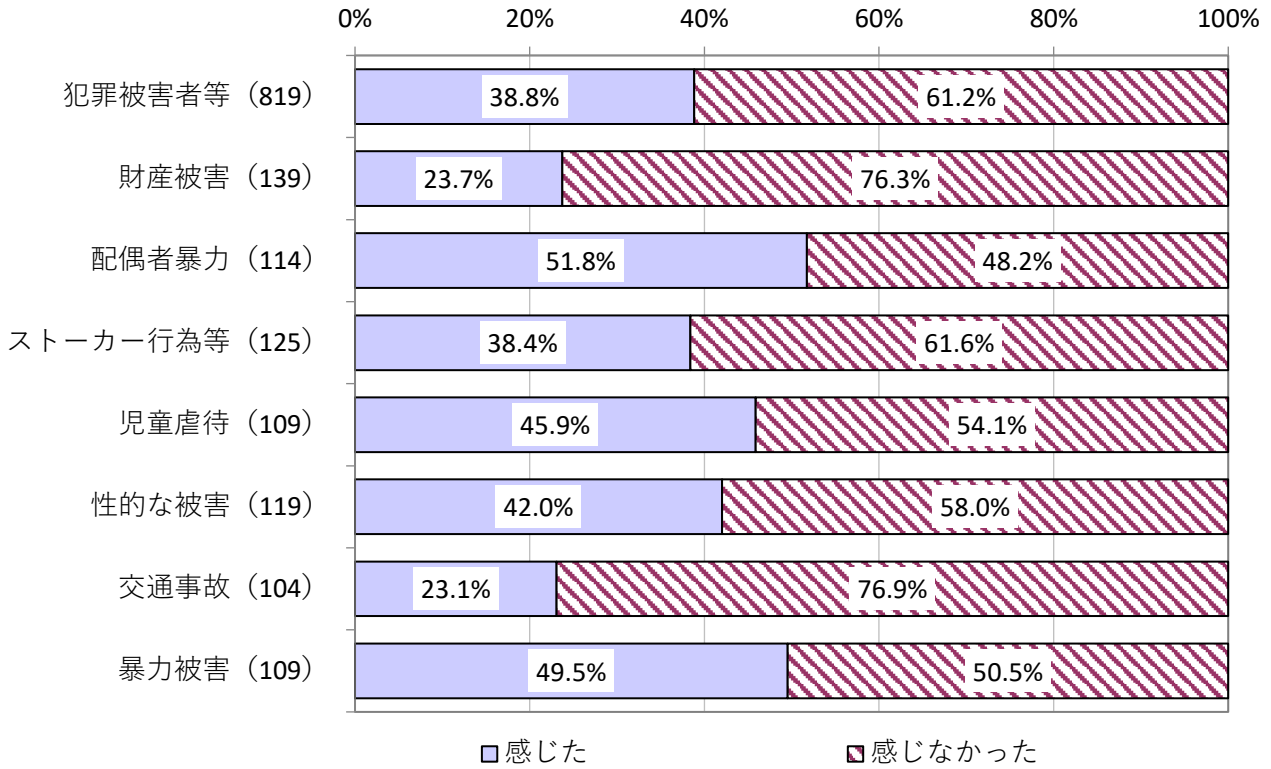
過去30日間における精神的な問題や悩みについて、犯罪被害類型別にみると、「感じた」との回答比率は、配偶者暴力（51.8%）が最も高く、次いで暴力被害（49.5%）、児童虐待（45.9%）、性的な被害（42.0%）となっている（図表4-5）。

精神的な問題と事件との関係については、事件と関係している（「事件が大いに関係している」と「事件がある程度関係している」の和）との回答比率は、児童虐待（58.0%）が最も高く、次いでストーカー（54.2%）、配偶者暴力（50.8%）、性的な被害（50.0%）となっている（図表4-6）。

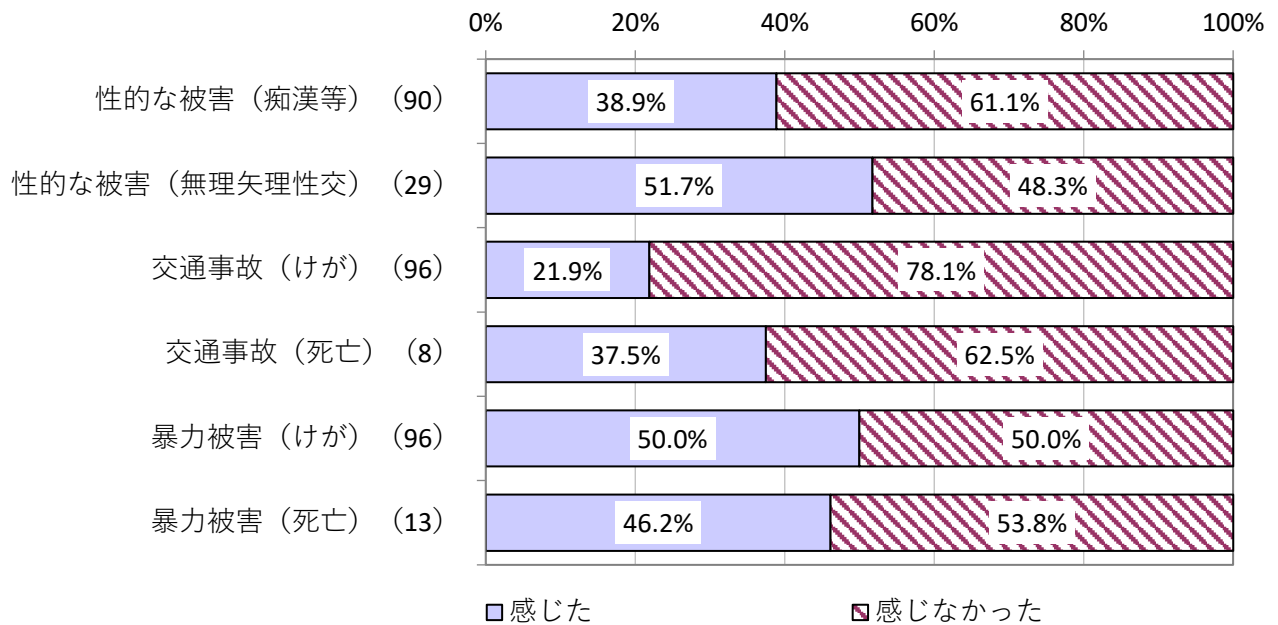
精神的な問題への対処方法としては、多くの犯罪被害類型で「特に何もしていない」との回答比率が最も高くなっている。「医療機関（精神科以外も含む）に通った（訪問診療を含む）」との回答比率は暴力被

害（35.2%）、児童虐待（32.0%）、ストーカー（31.3%）で、「家族や知人に相談した」との回答比率はストーカー（41.7%）で高くなっている（図表4-7）。

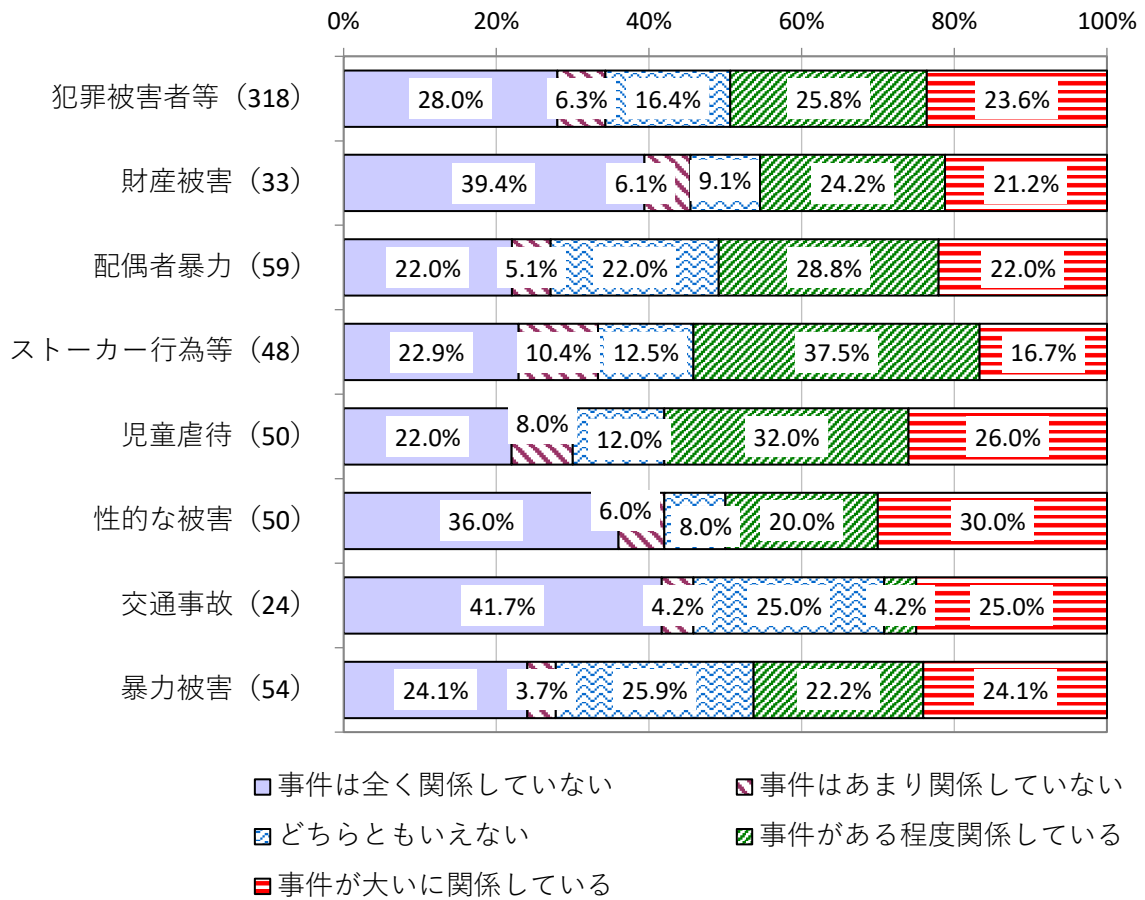
図表 4-5 犯罪被害類型別、精神的な問題の有無【SC1/SC3、Q31】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 4-6 犯罪被害類型別、精神的な問題と事件との関連【SC1/SC3、Q32】

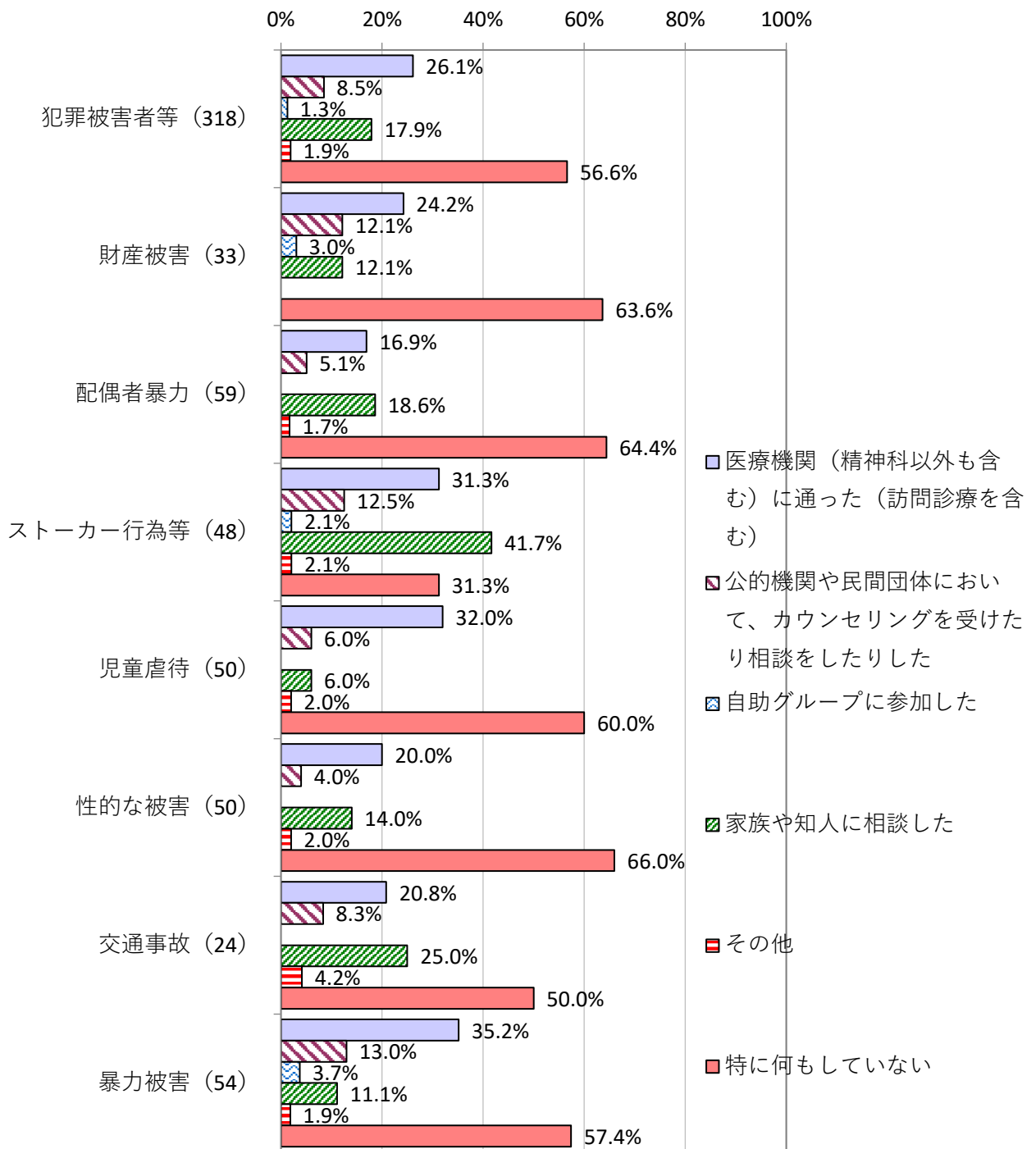


※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	事件は全く関係していない	事件はあまり関係していない	どちらともいえない	事件がある程度関係している	事件が大いに関係している
性的な被害	痴漢等	35	14 (40.0%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	5 (14.3%)	10 (28.6%)
	無理矢理性交	15	4 (26.7%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	5 (33.3%)	5 (33.3%)
交通事故	けが	21	8 (38.1%)	1 (4.8%)	5 (23.8%)	1 (4.8%)	6 (28.6%)
	死亡	3	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
暴力被害	けが	48	11 (22.9%)	2 (4.2%)	13 (27.1%)	11 (22.9%)	11 (22.9%)
	死亡	6	2 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)

図表 4-7 犯罪被害類型別、精神的な問題への対処方法（複数回答）【SC1/SC3、Q33】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。



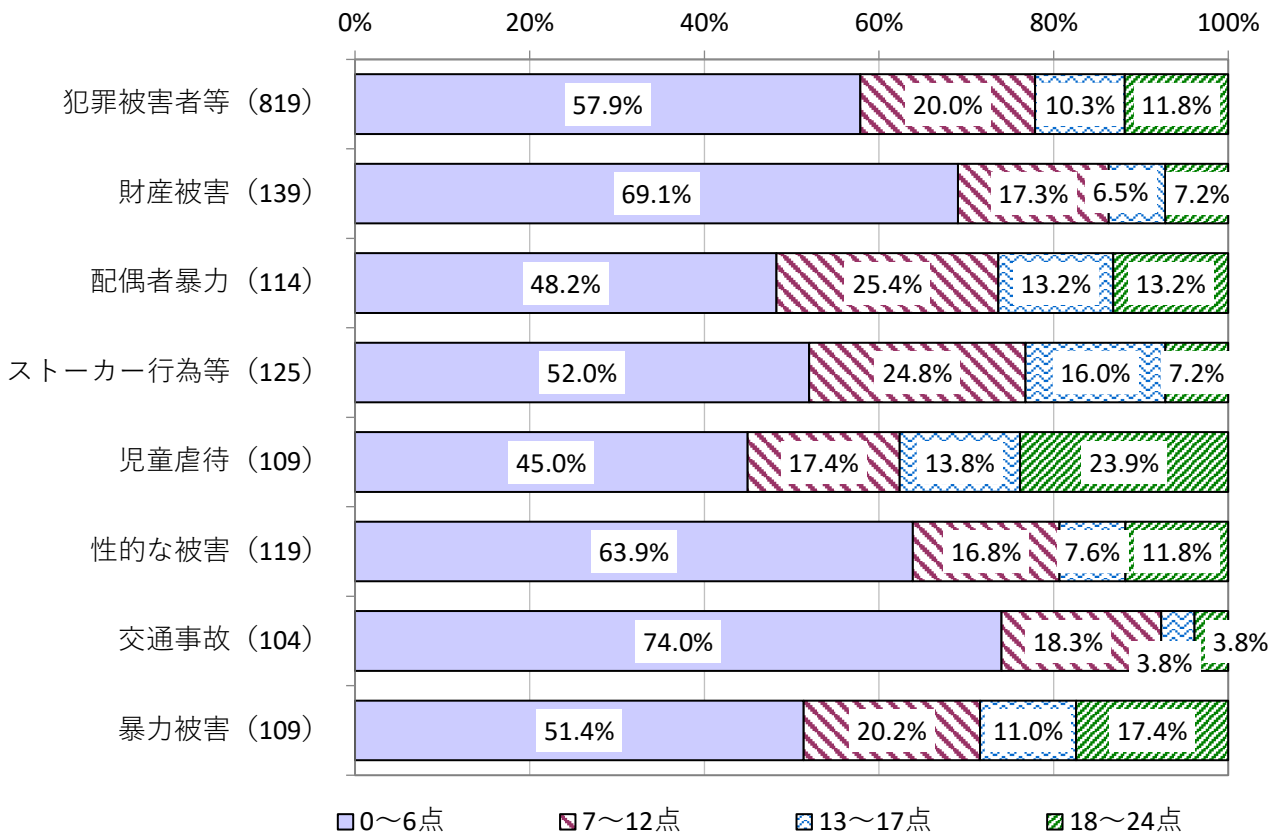
## 【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

		全体	医療機関(精神科以外も含む)に通った(訪問診療を含む)	公的機関や民間団体において、カウンセリングを受けたり相談をしたりした	自助グループに参加した	家族や知人に相談した	その他	特に何もしていない
性的な被害	痴漢等	35	4 (11.4%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	5 (14.3%)	1 (2.9%)	25 (71.4%)
	無理矢理性交	15	6 (40.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	8 (53.3%)
交通事故	けが	21	4 (19.0%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	6 (28.6%)	1 (4.8%)	10 (47.6%)
	死亡	3	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)
暴力被害	けが	48	18 (37.5%)	6 (12.5%)	1 (2.1%)	6 (12.5%)	1 (2.1%)	27 (56.3%)
	死亡	6	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (66.7%)

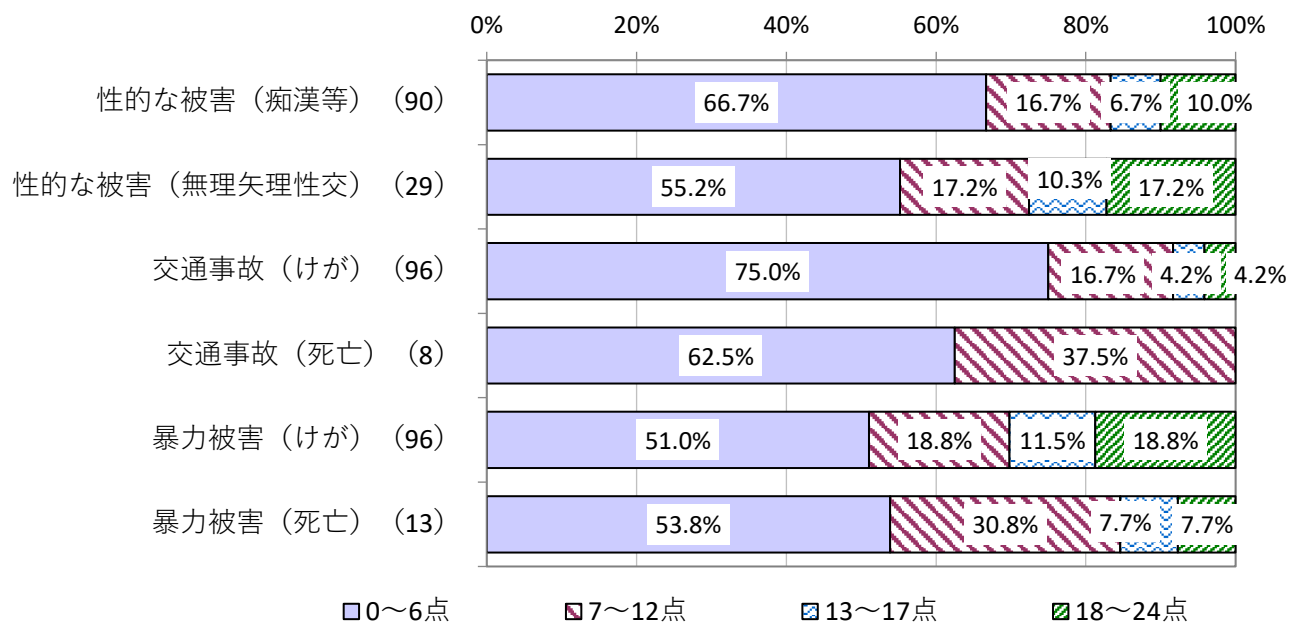
## Ⅰ. 精神健康状態(K6)

精神健康状態について、犯罪被害類型別にK6の値で比べると、重症精神障害相当とされる13点以上の割合は、児童虐待(37.7%)で最も高く、次いで暴力被害(28.4%)、配偶者暴力(26.4%)となっている(図表4-8)。

図表 4-8 犯罪被害類型別、K6 得点【SC1/SC3、Q34】



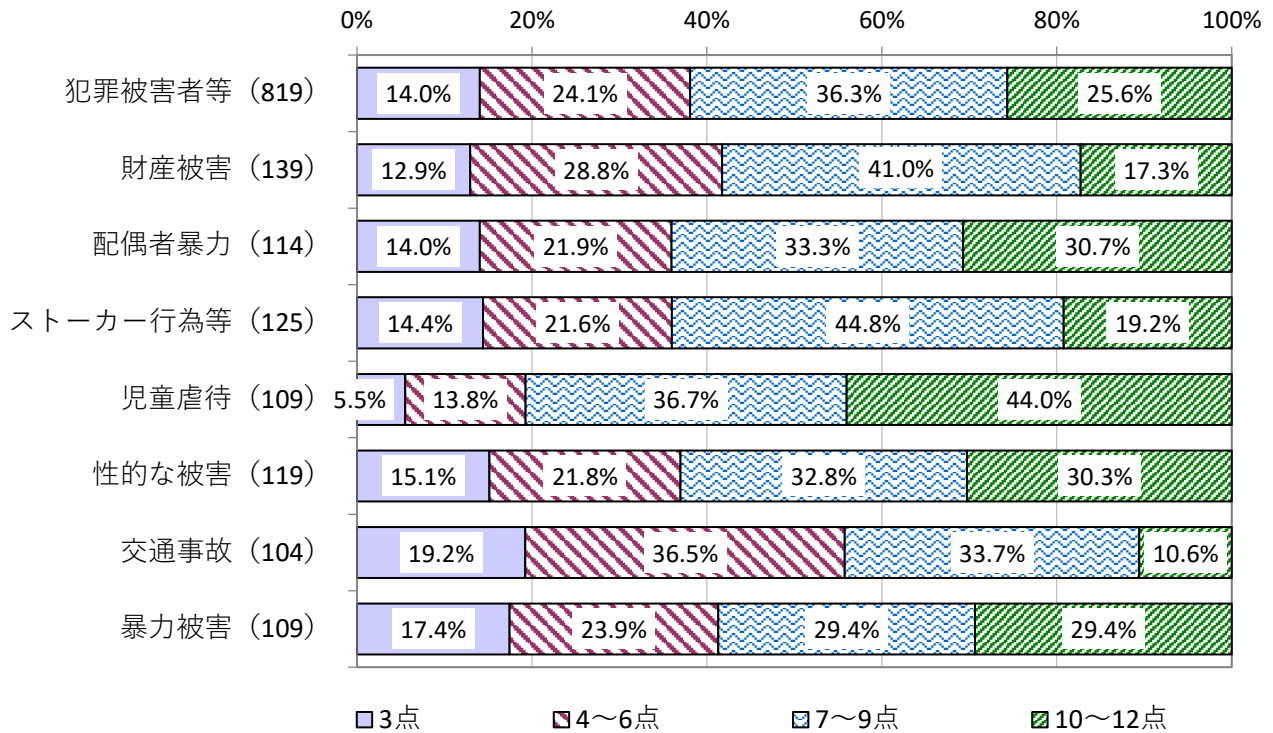
【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



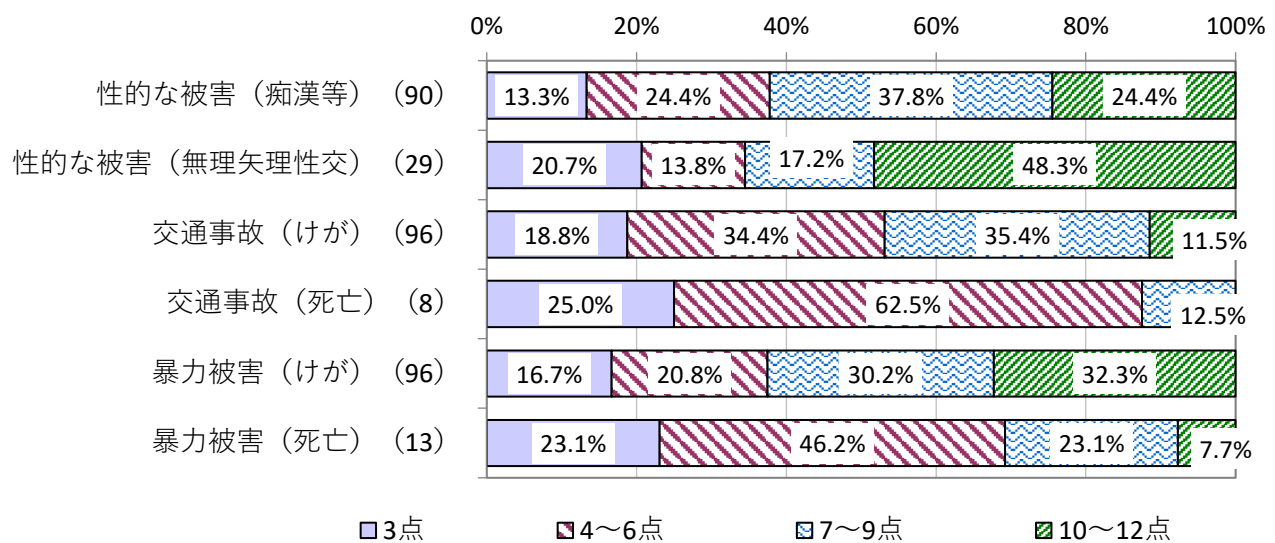
### ウ. 孤独感尺度(UCLA)

孤独感について、犯罪被害類型別に UCLA の値で比べると、10点以上の割合は、児童虐待（44.0%）が最も高く、次いで配偶者暴力（30.7%）、性的な被害（30.3%）となっている（図表4-9）。

図表 4-9 犯罪被害類型別、UCLA 得点【SC1/SC3、Q36】



#### 【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



### エ. 日常生活が行えなかったと感じた日数

直近1年間で心身の不調等により仕事や日常生活が行えなかったと感じた平均日数について、犯罪被害類型別にみると、児童虐待（50.0日）が最も多く、次いで暴力被害（44.2日）、ストーカー（34.4日）、配偶者暴力（34.0日）となっている（図表4-10）。

図表 4-10 犯罪被害類型別、日常生活が行えなかったと感じた日数【SC1/SC3、Q35】

犯罪被害類型	平均日数
犯罪被害者等(N=819)	28.9日
財産被害(N=139)	10.2日
配偶者暴力(N=114)	34.0日
ストーカー行為等(N=125)	34.4日
児童虐待(N=109)	50.0日
性的な被害(N=119)	25.5日
交通事故(N=104)	7.3日
暴力被害(N=109)	44.2日

#### 【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

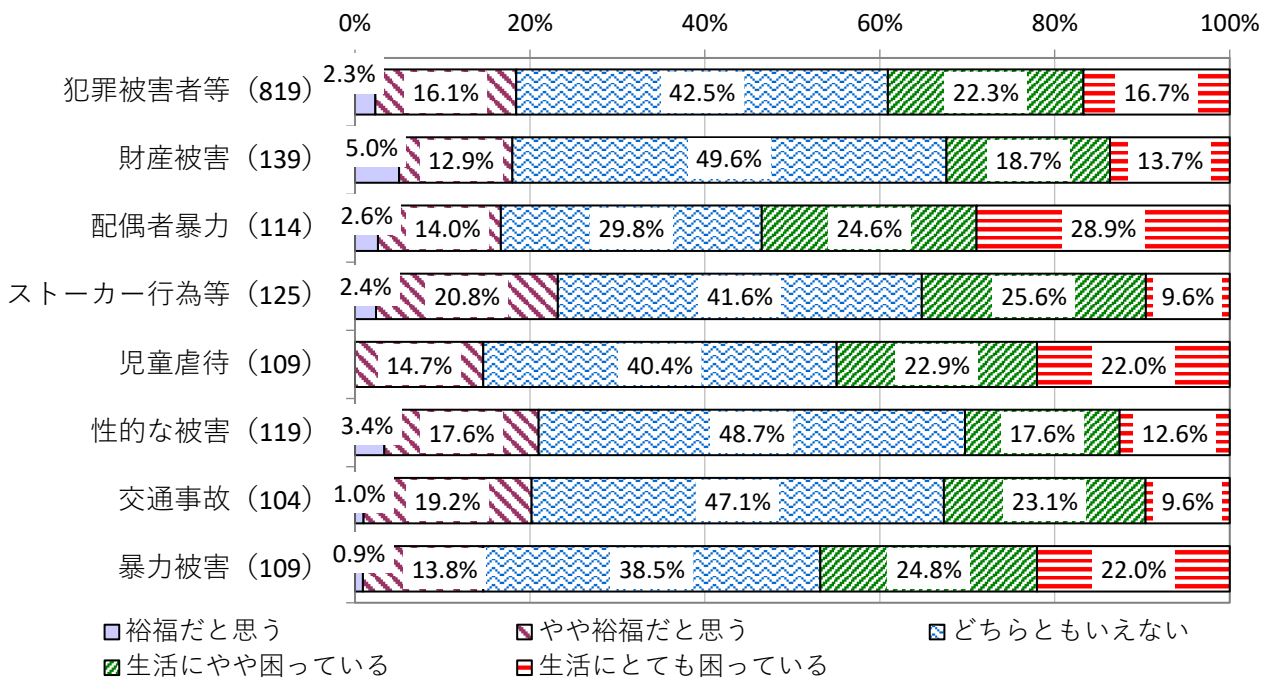
		平均日数
性的な被害	痴漢等(N=90)	16.9日
	無理矢理性交(N=29)	52.4日
交通事故	けが(N=96)	7.9日
	死亡(N=8)	0.0日
暴力被害	けが(N=96)	48.9日
	死亡(N=13)	9.6日

## (4) 経済的状況

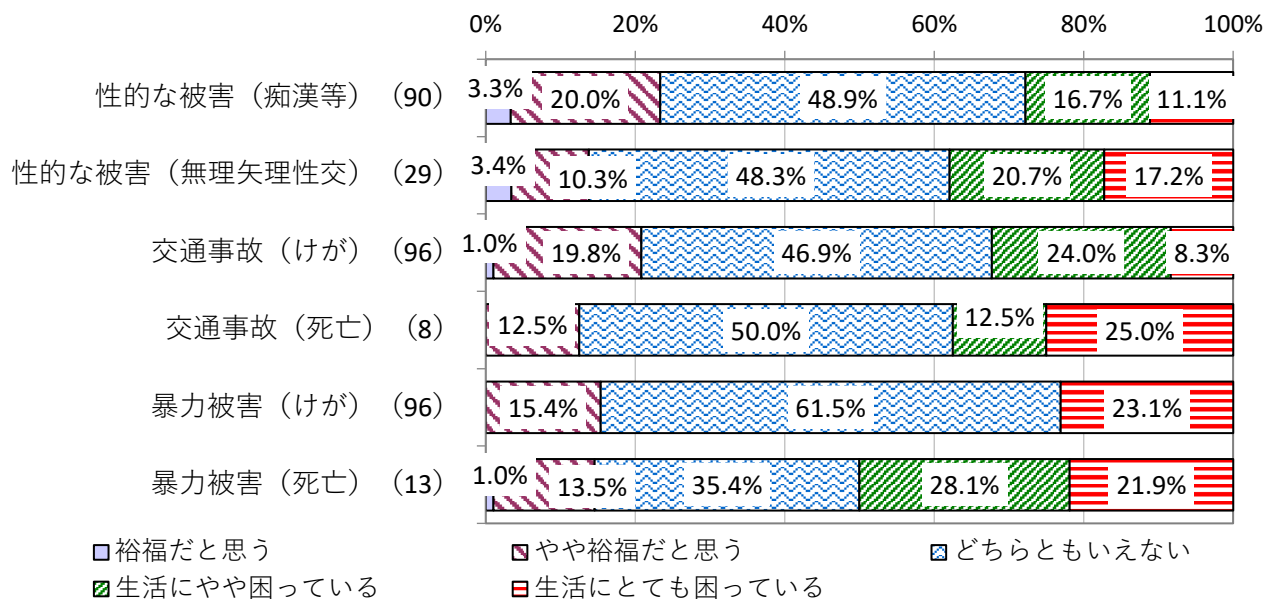
## ア. 生活の状況

経済的状況に関する意識について、犯罪被害類型別にみると、裕福（「裕福だと思う」と「やや裕福だと思う」の和）との回答比率は、ストーカー（23.2%）が最も高く、次いで性的な被害（21.0%）、交通事故（20.2%）となっている。一方、困っている（「生活にとても困っている」と「生活にやや困っている」の和）との回答比率は、配偶者暴力（53.5%）が最も高く、次いで暴力被害（46.8%）、児童虐待（44.9%）となっている（図表4-11）。

図表 4-11 犯罪被害類型別、経済的状況に関する意識【SC1/SC3、Q37】



## 【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

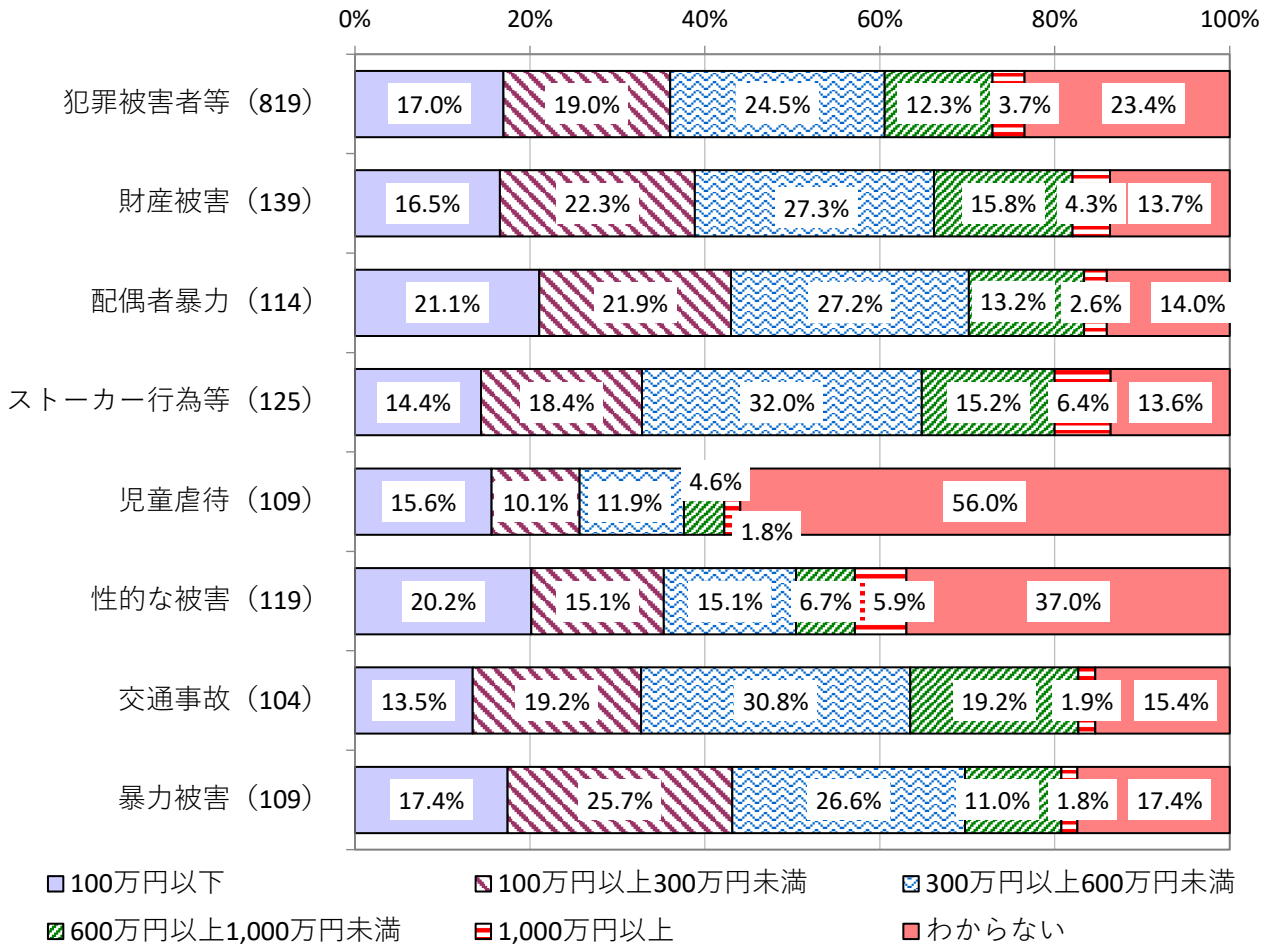


イ. 年収

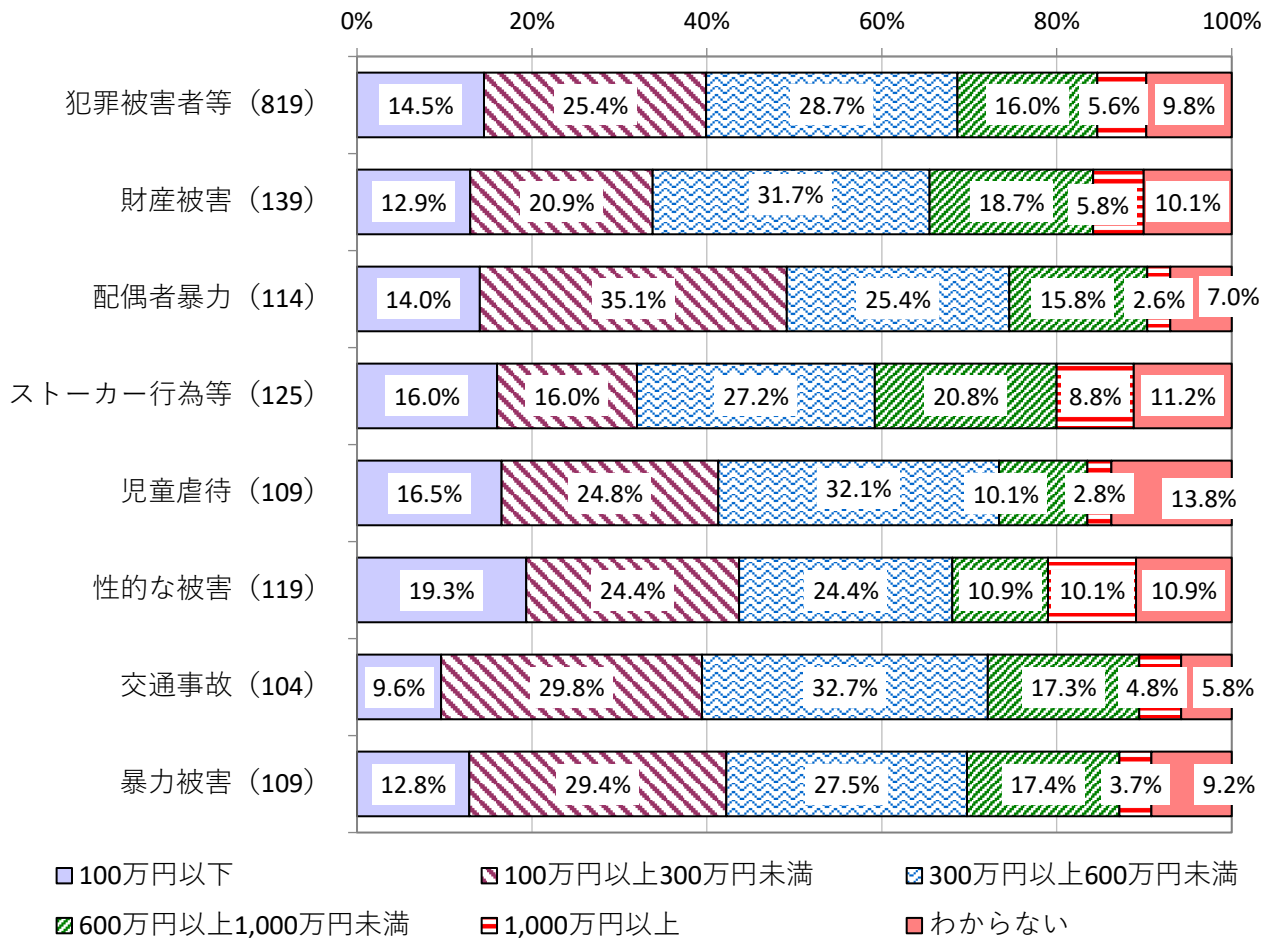
被害にあう前の世帯年収の水準について、犯罪被害類型別にみると、配偶者暴力、性的な被害では他の類型と比較して年収水準がやや低く、特に「100万円以下」との回答比率が比較的高くなっている。なお、児童虐待、性的な被害では「わからない」との回答比率も高い（図表4-12）。

現在の世帯年収の水準については、「100万円以下」との回答比率は性的な被害（19.3%）が最も高い（図表4-13）。

図表 4-12 犯罪被害類型別、被害にあう前の年収水準（世帯年収）【SC1/SC3、Q38】



図表 4-13 犯罪被害類型別、現在の年収水準（世帯年収）【SC1/SC3、Q39】



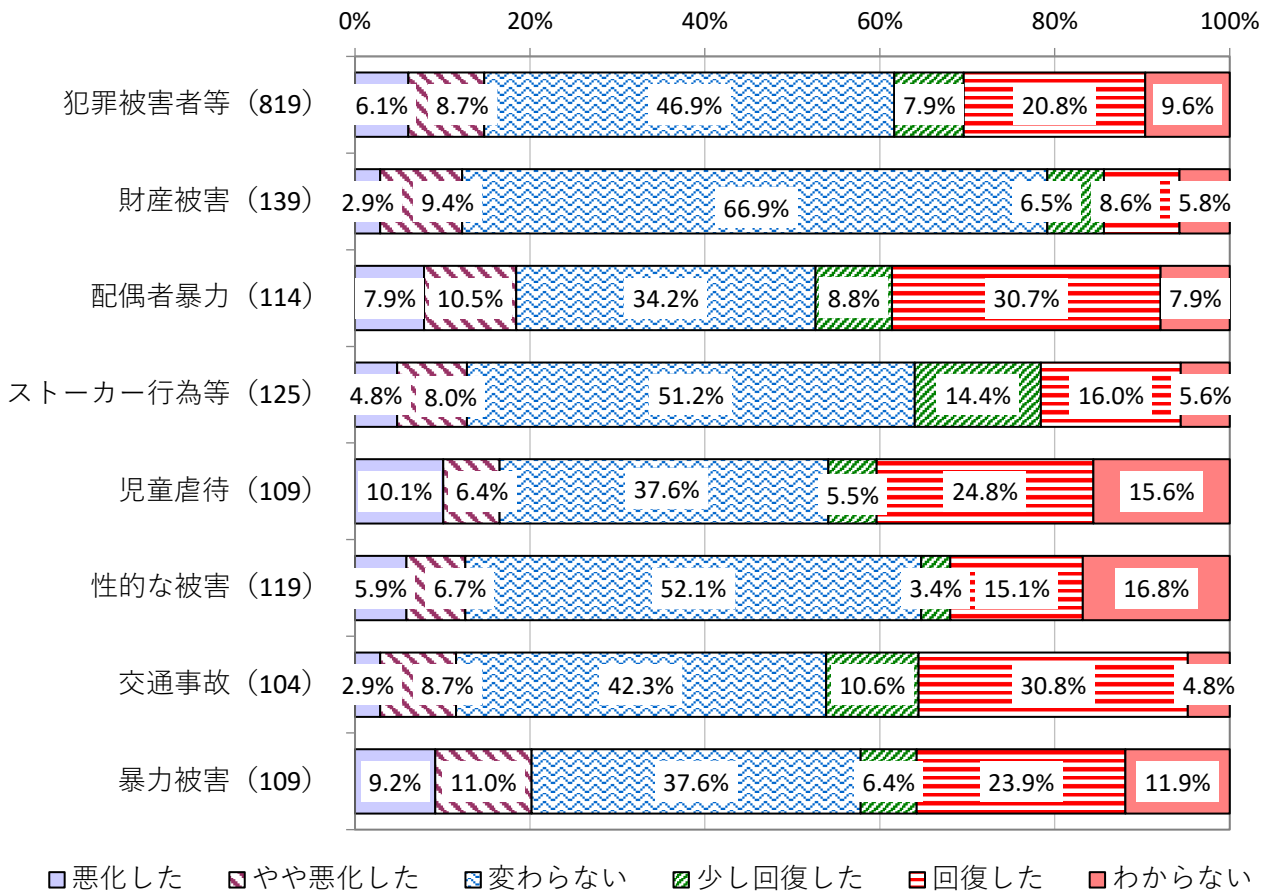
(5)被害からの回復状況

ア. 身体的状況の変化

事件直後と現在の身体的な状況の変化について、犯罪被害類型別にみると、多くの類型で「変わらない」ないしは回復基調（「回復した」と「少し回復した」の和）との回答比率が高くなっている。一方、悪化基調（「悪化した」と「やや悪化した」の和）との回答比率は、暴力被害（20.2%）が最も高く、次いで配偶者暴力（18.4%）、児童虐待（16.5%）となっている。特に、児童虐待は、「悪化した」（10.1%）との回答比率が他の類型と比較し最も高くなっている（図表4-14）。

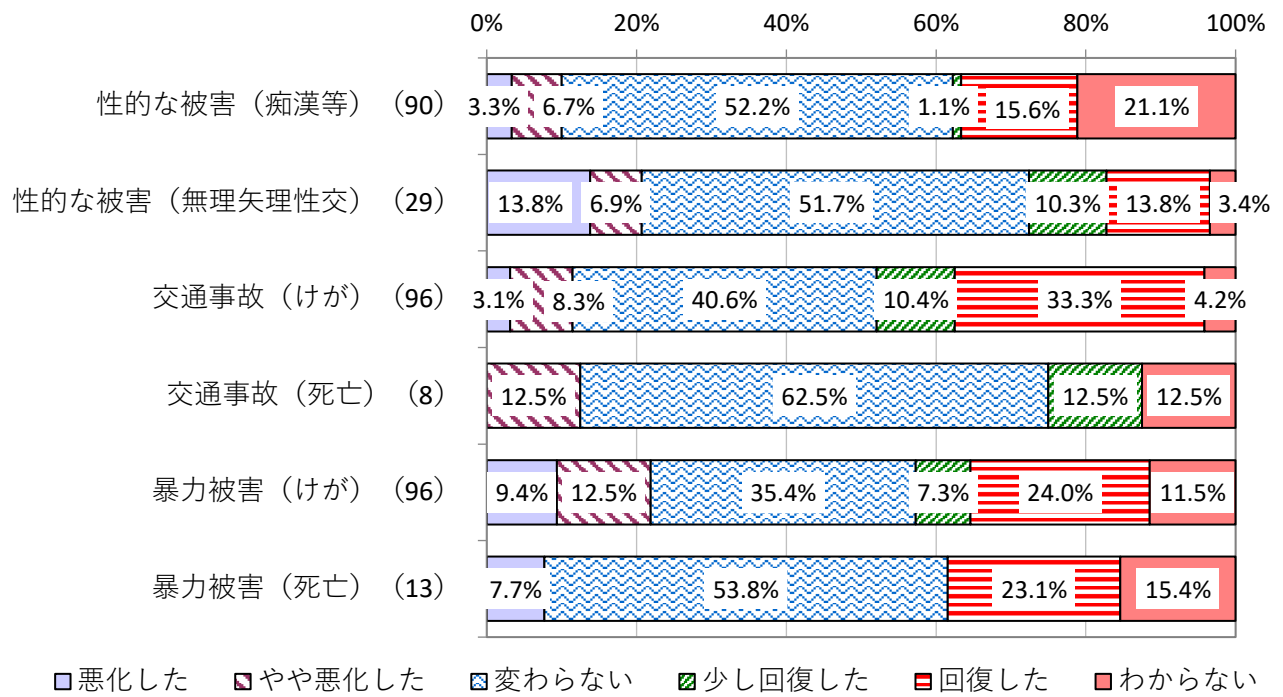
身体的な状況の悪化と事件の関連については、図表4-15のとおり。

図表 4-14 犯罪被害類型別、事件直後と現在の状況変化\_身体的状況【SC1/SC3、Q51】

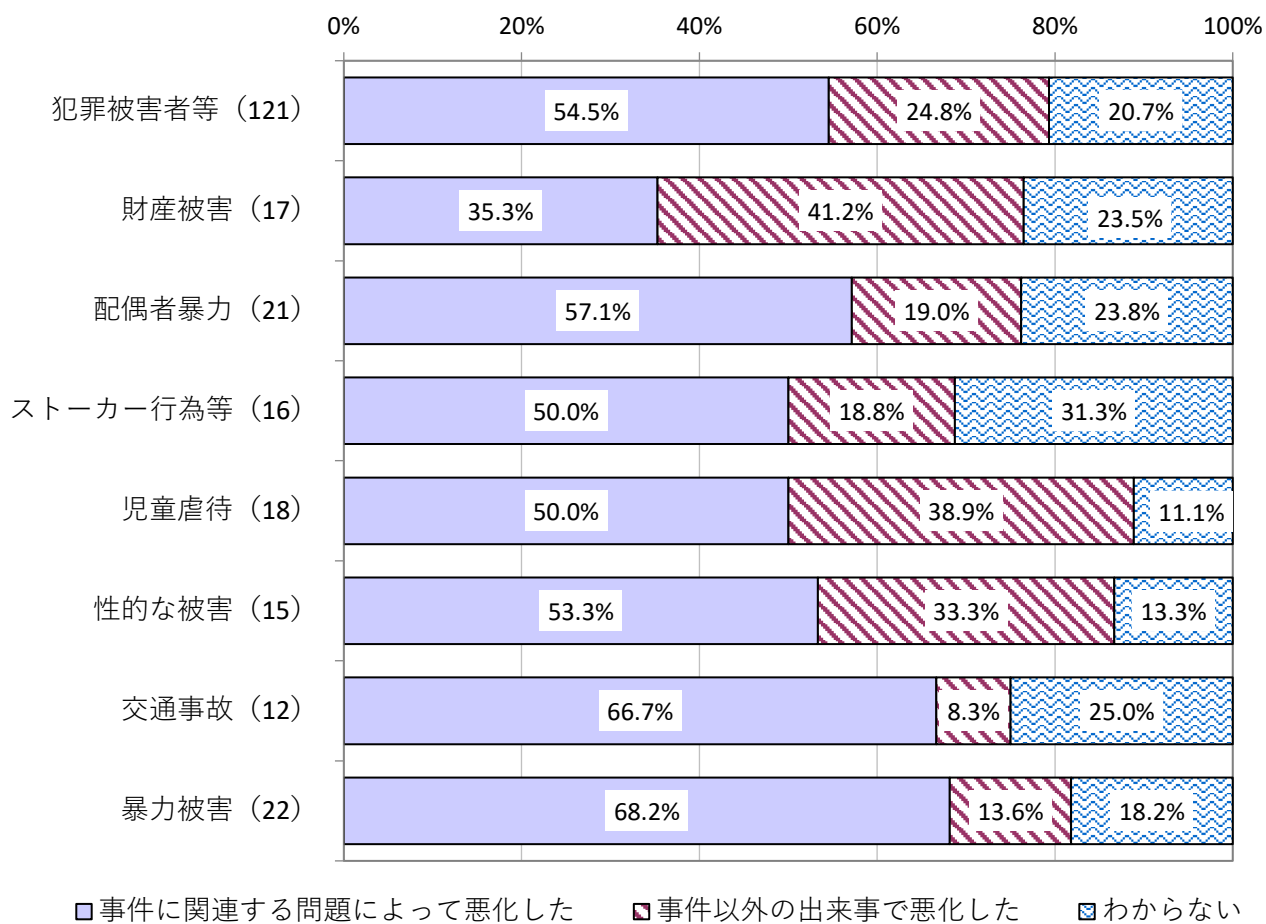




【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 4-15 犯罪被害類型別、状況の悪化と事件との関連\_身体的状況【SC1/SC3、Q52】



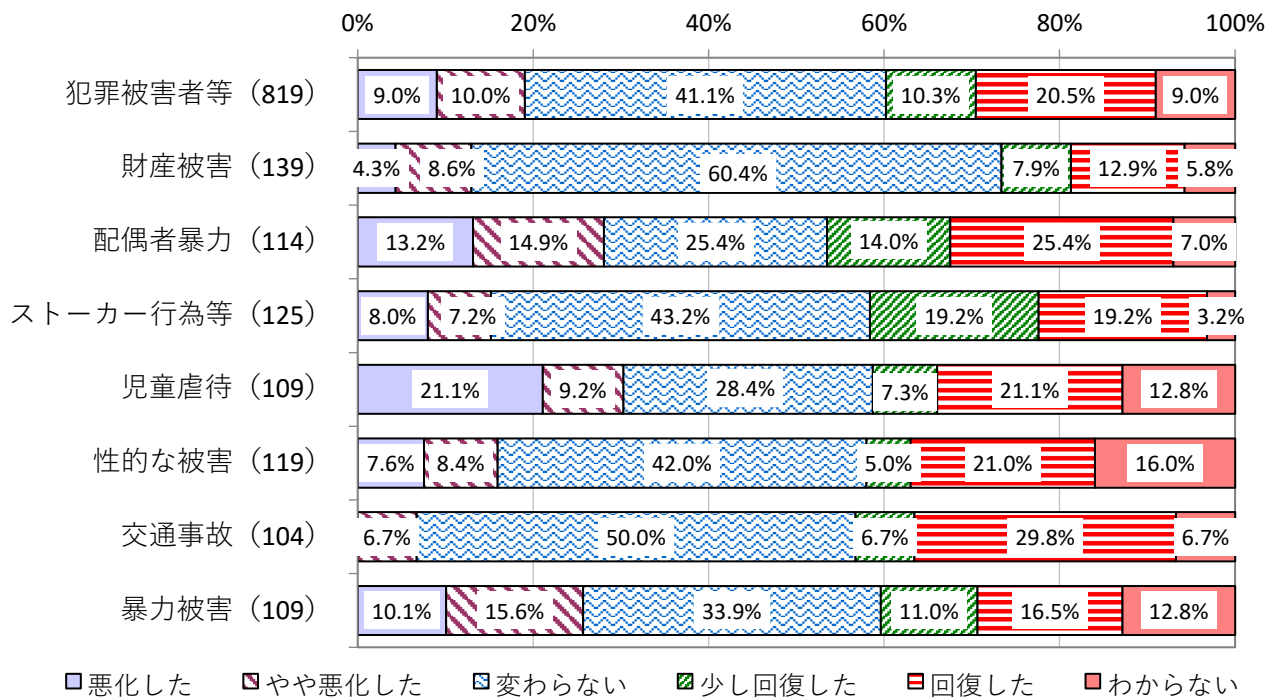
※対象：Q51（身体的な状況の変化）で「悪化した」「やや悪化した」と回答した方（121人）のみ。

## イ. 精神的状況の変化

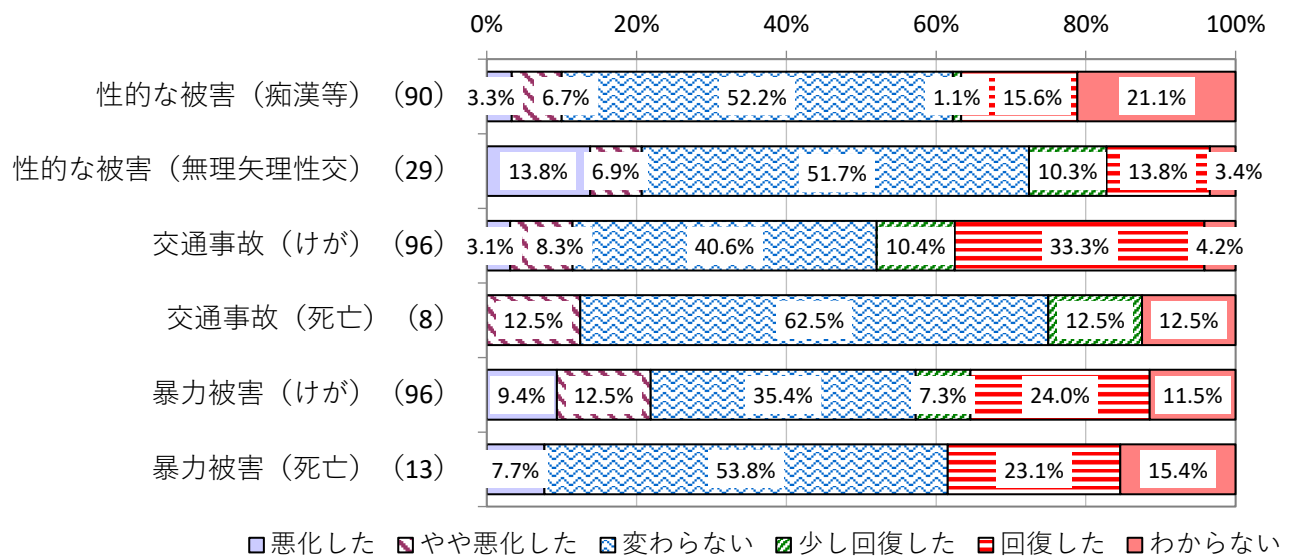
事件直後と現在の精神的な状況の変化について、犯罪被害類型別にみると、悪化基調（「悪化した」と「やや悪化した」の和）との回答比率は、児童虐待（30.3%）が最も高く、次いで配偶者暴力（28.1%）、暴力被害（25.7%）となっている（図表4-16）。

精神的な状況の悪化と事件の関連については、図表4-17のとおり。

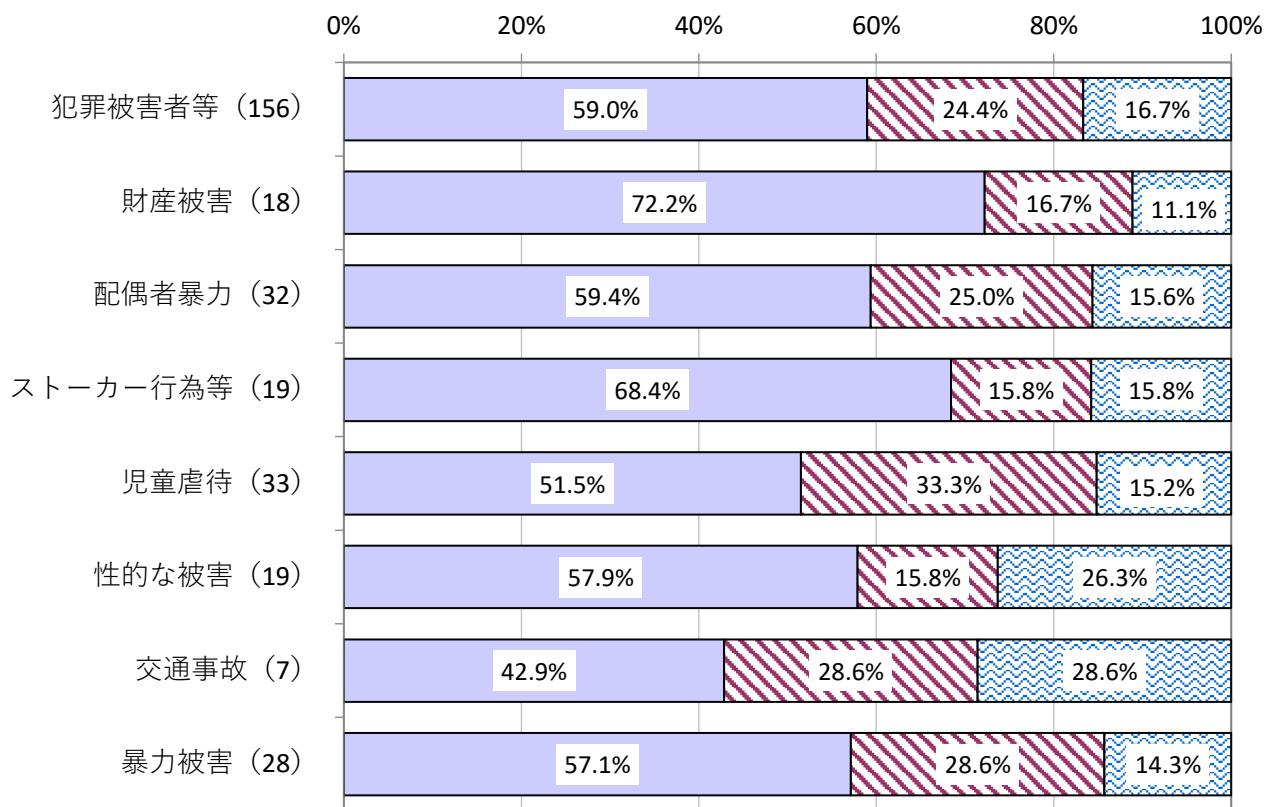
図表 4-16 犯罪被害類型別、事件直後と現在の状況変化\_精神的状況【SC1/SC3、Q51】



### 【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 4-17 犯罪被害類型別、状況の悪化と事件との関連\_精神的状況【SC1/SC3、Q52】



□ 事件に関連する問題によって悪化した    ■ 事件以外の出来事で悪化した    ▨ わからない

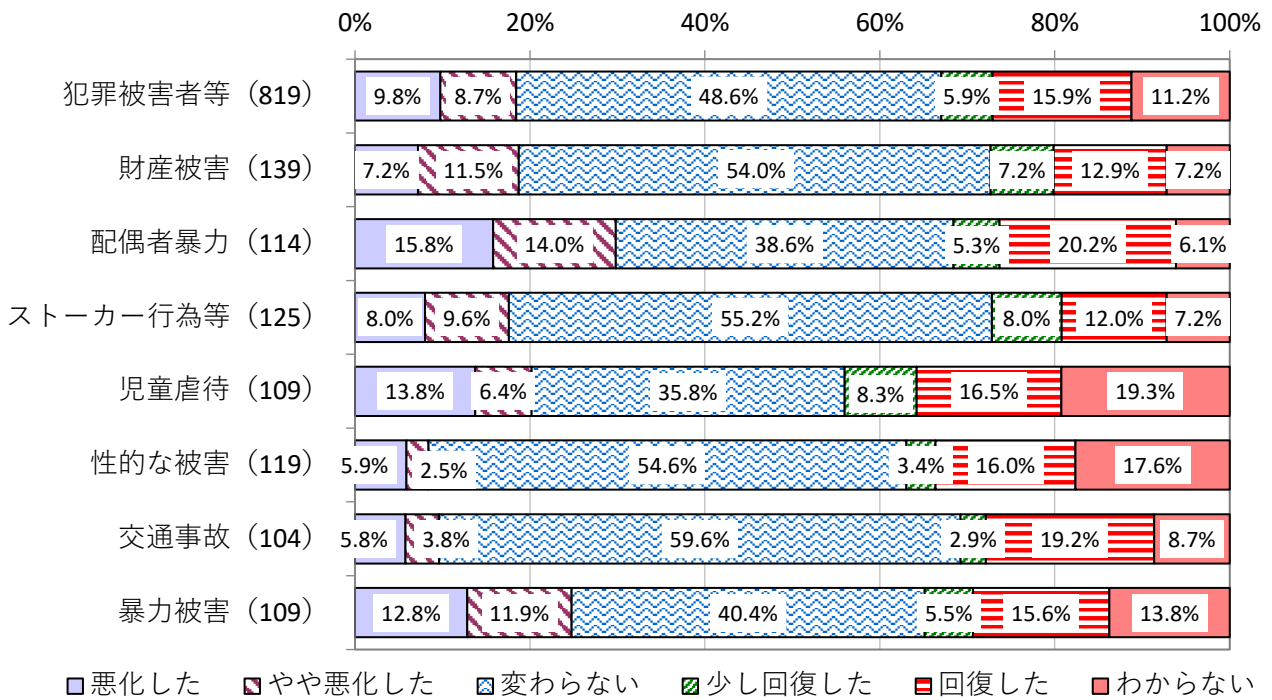
※対象：Q51（精神的な状況の変化）で「悪化した」「やや悪化した」と回答した方（156人）のみ。

ウ. 経済的状況の変化

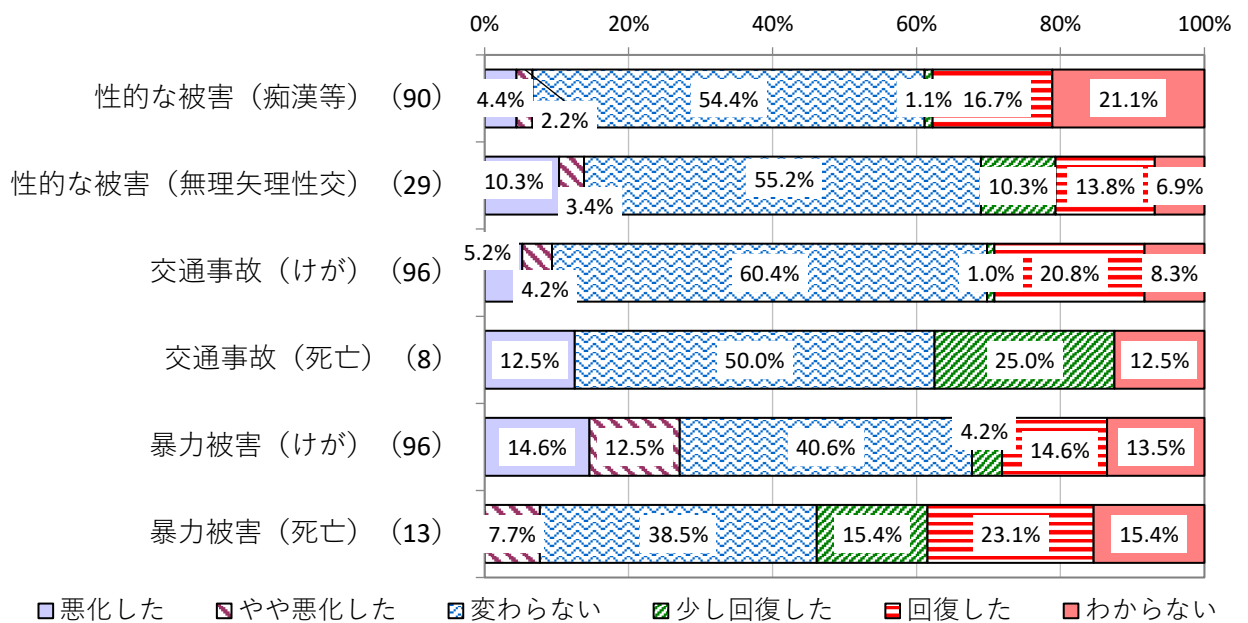
事件直後と現在の経済的状況の変化について、犯罪被害類型別にみると、悪化基調（「悪化した」と「やや悪化した」の和）との回答比率は、配偶者暴力（29.8%）が最も高く、次いで暴力被害（24.7%）となっている（図表4-18）。

経済的状況の悪化と事件の関連については、図表4-19のとおり。

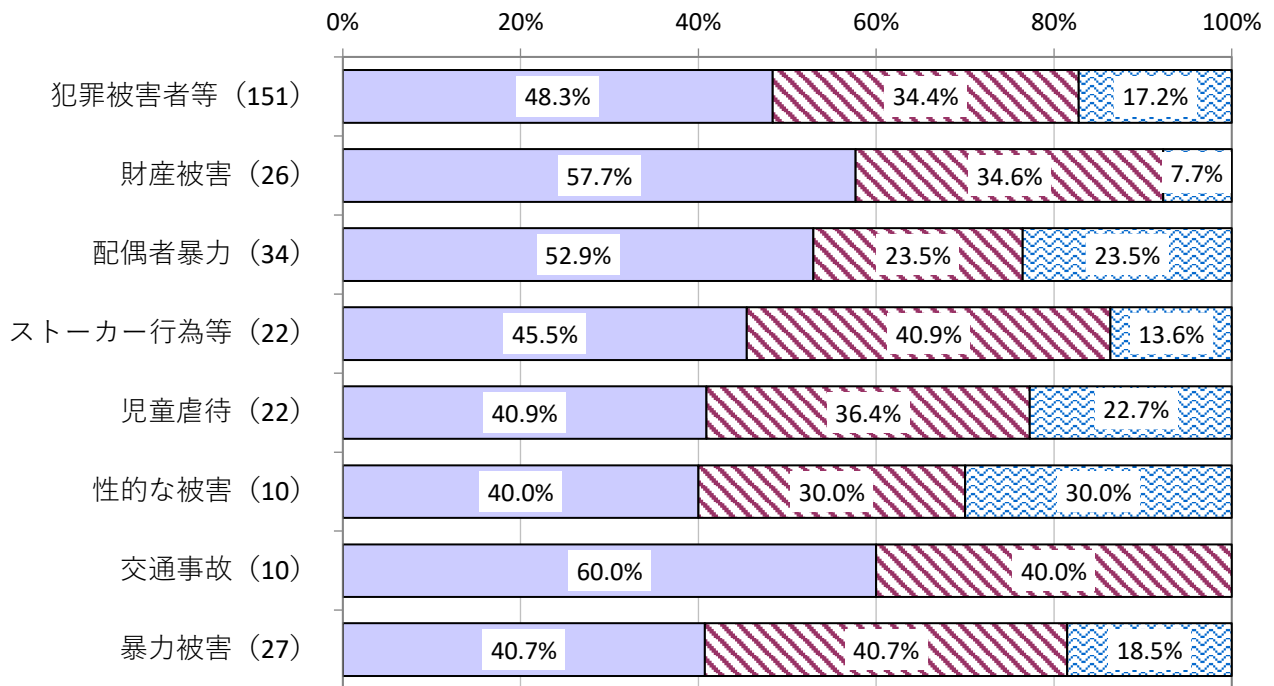
図表 4-18 犯罪被害類型別、事件直後と現在の状況変化\_経済的状況【SC1/SC3、Q51】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳



図表 4-19 犯罪被害類型別、状況の悪化と事件との関連\_経済的状況【SC1/SC3、Q52】



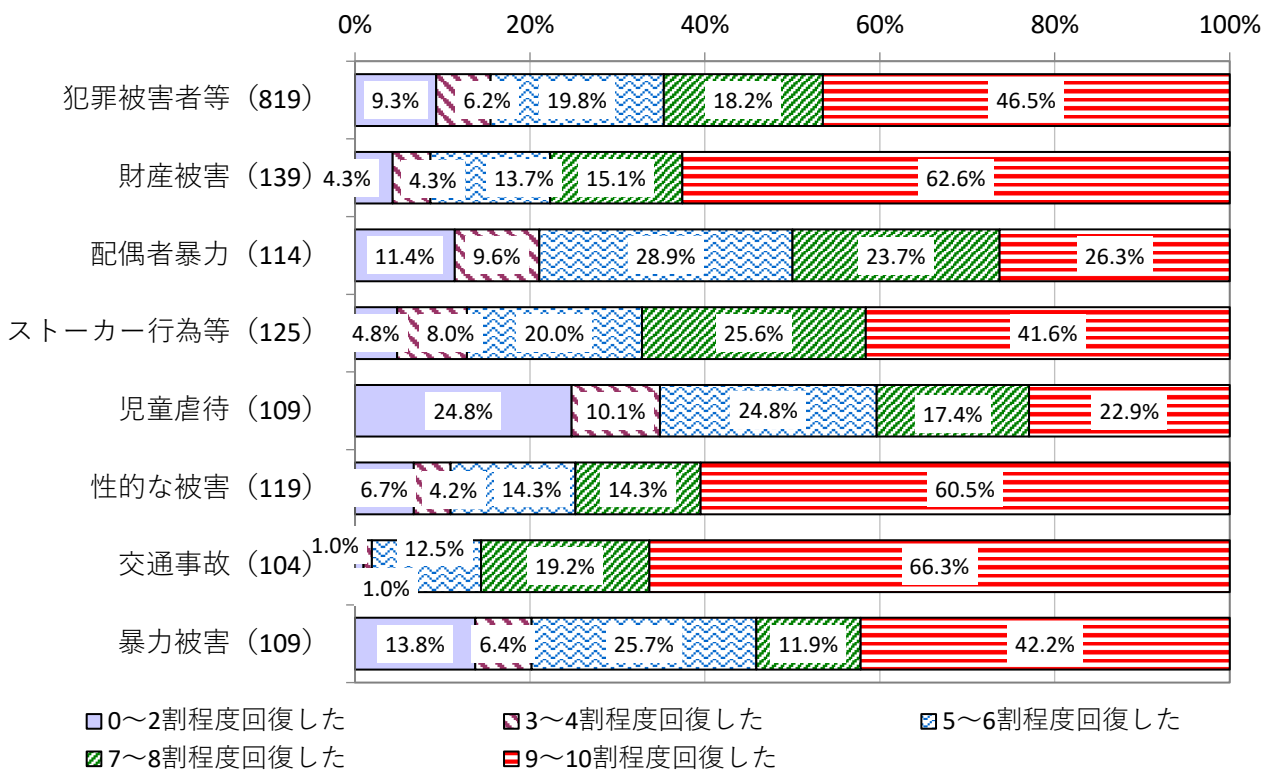
□ 事件に関連する問題によって悪化した    ■ 事件以外の出来事で悪化した    ▨ わからない

※対象：Q51（経済的な状況の変化）で「悪化した」「やや悪化した」と回答した方（151人）のみ。

## エ. 被害からの回復度

被害からの回復度（犯罪被害者等の主観的意見）について、犯罪被害類型別にみると、半分以上回復した（「5～6割程度回復した」と「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）とする回答比率は、交通事故（98.0%）が最も高く、次いで財産被害（91.4%）、性的な被害（89.1%）となっており、最も低いのは児童虐待（65.1%）である。また、児童虐待、暴力被害、配偶者暴力では、「0～2割程度回復した」との回答比率がそれぞれ24.8%、13.8%、11.4%と、他の類型に比べて高くなっている（図表4-20）。

図表 4-20 犯罪被害類型別、被害からの回復度【SC1/SC3、Q53】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

